

消防団長紹介



吹田市消防団 団長 近藤 良二

昭和15年4月1日に三島郡吹田町、千里村、岸部村、豊能郡豊津村の4町村が合併し「吹田市」が誕生しました。昭和45年3月には、日本万国博覧会が開催され、入場者数は6421万人を記録し、吹田市の存在を世界に大きくアピールしました。吹田市の特産は「吹田くわい」で、吹田市のイメージキャラクター「すいたん」のモチーフにもなっています。令和2年4月1日に中核市に移行となり、自治権限を強化し、様々な行政課題に取り組んでいます。

本市消防団は、1本部9分団2班で構成されており、市内に配置された分団はそれぞれの管轄地域を24時間体制で守っています。防災訓練や救命講習などに参加し、春・秋の火災予防週間中には管内を夜間巡回パトロールや消防署と合同訓練も実施しています。火災以外にも台風などの自然災害が発生すれば出動し、地域での活動では、自主防災組織や地域住民に対する訓練指導・防災知識の普及啓発を実施し、防災意識を高め災害に強い町を目指し活動しています。

私は、平成9年5月1日に吹田市消防団団員として拝命以来、班長、部長を務め、平成23年4月に分団長、平成31年4月に副団長を歴任し、令和4年4月に団長に任命されました。

消防団活動で記憶に残っている出来事は、消防団に入団し、5年が経過した頃の平成15年4月、本市の鉄筋平屋建ての大型店舗約1,550平方メートルを全焼する火災に出動したことです。現場到着時には、今までに経験したことがない輻射熱や爆発音の中、私の分団も被害を最小限に抑えるため、長時間にわたる放水をおこない、現場引揚げ時には腕が上がらないくらいの疲労がありました。この火災現場では、多くの市民が不安そうな面持ちで私達の活動を見守ってくれており、消防団員としての使命感や責任を感じた現場でもありました。その他では、私の所属小隊が大阪府消防大会でポンプ車操法大会に出場することが決まり、日夜訓練に明け暮れた日々が印象に残っています。本業を持つ私達は、平日昼間には訓練を行うことが出来ないため、仕事を終えた後、訓練会場に向かい設営から撤収までを行い、選手の団員のサポートをすることで、消防団活動で必要不可欠なチームワークを長期の訓練を通じ、学ぶことが出来ました。今でも夏を迎えると、あの頃の記憶がよみがえってきます。

火災現場はもちろんのこと、台風などの自然災害が頻発している中、地域防災力の中核となるため使命感を持って活動しています。「自分たちの町は自分たちが守る」をモットーに高い志で地域一体となり安心して暮らせる町づくりを目指しています。地域のために活動する消防団に興味のある方は是非、一歩踏み込んでみませんか。吹田市消防団はそんなあなたをお待ちしています。